

令和5年度 第1回さぬき市地域未来づくり会議 会議要旨

開催日時	令和5年4月20日（木）午後7時～午後8時25分
場 所	さぬき市役所2階 203会議室
出席者	[委員・コーディネーター] 計5名 折原委員、砂川委員（WEB）、長町委員、池田委員、黒川コーディネーター
	[事務局] 計3名 向井審議監 プロジェクト推進室：大山室長、谷本主任主事
欠席者	なし
傍聴者	なし
次第	1 開会 2 座長の選任について 3 さぬき市地域未来づくり会議の活動内容等について 4 委員の皆さまが感じるさぬき市の課題について 5 その他 6 閉会
配布資料	次第 資料1 さぬき市地域未来づくり会議の設置について 資料2 さぬき市地域未来づくり会議設置要綱
発言者	意見概要
事務局	（次第1～3について） 各委員・コーディネーター・事務局自己紹介 黒川コーディネーターを座長に選任 会議開催の趣旨及び目的を説明
座長	（次第4について） 今回さぬき市の課題について、一旦委員の中で意見を出し合いながら、例えば空き家や農業、子育てといったテーマを絞った後、次回の会議の時に市からその課題に関する現状や数値データ等を用意していただけることとなっているので、今日は細かい数値に基づいてというのではなく、肌感覚の話であったり、自分自身がこう感じるとかのレベルで構わないので、まずは意見をたくさん出し、共通点があるものを絞っていく方向で良いのではないかと考えている。 何か思いつくことはあるか。
委員	私はさぬき市生まれさぬき市育ちだが、さぬき市になる前は5つの町であった。5町が合併して大分経つが各地域の温度差というか仲間意識の低さというのは住んでいて感じる。我らさぬき市というところが全くなく、地域で分断しているイメー

	<p>ジがある。一丸となる方法も考える必要があるのではないか。</p>
委員	<p>さぬき市が色々な計画を立てたり、新しいプロジェクトをしたりしているが、実際市民の方々の意識の部分でちょっと閉鎖的な感情があったり、新しいことを嫌がったり、変化を怖がっている部分があると思うので、一市民の方にも気軽にやってもらえる環境を色々な場面で作っていけば、全体の意識が変わるのではないかと思う。</p>
委員	<p>市の情報の分かりにくさや伝わりにくさというのはあると思う。実は調べてみたらさぬき市は色々しているが、その情報が届かないまま期限切れになることが現状としてあるのではないか。</p> <p>最新の情報がここだけ見れば分かるといったものあれば良いのではないか。</p> <p>市のホームページは分かりにくい。LINEで情報を発信しているが、市民の方はあまり登録していないのではないか。</p>
事務局	<p>現在1,700人の登録がある。</p>
委員	<p>家族や同級生と話をしている、家族に関わる理由以外にさぬき市に帰る理由がないという声はよく出てくる。さぬき市がこれをやっているとかこういう特典があるから帰りたいというものがない。仕事が忙しかったりするとさぬき市との接点がない。</p> <p>公式LINEの存在も今初めて知ったが、県外へ出られた方との接点づくりとかがあると思うので、LINEが既にあるということは使えるのではないかと思う。</p>
座長	<p>今の話で言うとLINEの登録者数は8～9割あると最新情報がそこから分かるので、LINEの普及率をいかに上げるのかというのは課題としてある。</p>
委員	<p>LINEの登録をしていないので、県外へ出られた方へ市が帰ってきてもらうためにやっている取組があるのに届いていないので効果が期待できないのか、そもそも魅力的な取組や施策が不足しているのかというところは別で考えたいと思う。</p>
委員	<p>旧町体質が抜けていない。山側の人間はこういう性格だからとか、海側の人間はこういう性格だからということをいう人が結構いる。行事等についても同じ町内に住んでいる人は知っているけどそこを飛び越えると同じ市であるのに知らないし、情報をキャッチしようとしなくていいし、キャッチしようとするコンテンツが圧倒的に少ない。</p> <p>帰る理由が少ないということは、今現在外に出ている人がリアルに感じる場所で、私達は逆に住んでいるから感じにくいかもしれない。</p>

	<p>旧町体質は根幹的に解消しなければいけない問題なのではないかと思う。ただ1年や2年で解消できるものでもないと思うので、未来会議としては、この課題に対して例えば基礎の部分を作っていくかという話になるのではないかと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>5町それぞれで地域づくりをやりたいと思う人を集めてみるのも良いと思う。さぬき市全体となるとあまり集まらなさそうだが、それぞれの町で集めたら実はいるのではないか。年配の方でも若い人がやっていると手を貸してあげようかとなるイメージがある。</p>
<p>座長</p>	<p>さぬき市に愛着を持つと言われると難しい。どういうことかというと野球が好きな人がサッカーを好きだとは限らないことと同じような話の気がする。今の話は旧町間の連携不足によってもったいないと思うところと、別にそれはその人の好きにしたらいいいという部分が混ざっている。本当にこの部分が課題というところと、これはこれで良いという部分とを分けてあげることは大事なのではないかと思う。それと市の情報発信の部分も外や内にいる人の向けの発信とで違いがある。昔、大阪で地震被災にあったがその時には市の公式ツイッターからの情報で周辺の大学生は避難所の情報とかを知った。そういうその時すぐに届けるみたいところが弱いと感じる。中にいる人向けにはどのような制度が使えるのかとか、外にいる人向けにはこのような店が新たにオープンしましたとかの情報を送り続けるとかといったように発信を分けて行うことが必要だ。この会議の中で外の人向けの発信にフォーカスして進めていくのか、あるいは中の人向けにしていくのかというふうに分類できていくと良いと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>人口増加のことを考えると外向けの方が良いと思う。</p>
<p>座長</p>	<p>今回はあくまで未来づくりなので、未来づくりにおいて重要なのは何なのかの視点で課題を選んでいくことは大事だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>共通の目標というか、選ばれ続けるまちはすごく意義があると思う。今住んでいる人に応援されるまちを目指すということも良いことだと思うし、人口減少が激しいので、外の人から今までゆかりがなかったけど新しく好きになってくれる人とかを応援するのかを最終的に決めると良いのではないかと思う。</p>
<p>座長</p>	<p>地域の中にいる人と地域の外にいる人、大きく分けて2つあると思う。持論だが、地域を良くしていくか、どう面白くしていくかという時に重要視している指標があって、それは「作り手率」と呼んでいるがそれが何かというと、例えば、10万人の人口のまちがあって全員がまちの悪口を言っている場合と1万人しかいないまちでも色々なことをやってみようという人達ばかりのまちの場合とを比べるとどちらが20年後元気かということ、人口だけでみると10万人の方がいいかもしれない</p>

	<p>いが、蓋を開けてみると1万人の方が人口も増えて面白いことを色々やっけていてまちとして生き残るのではないかと思っている。そういう作り手と受け手とさらに行政というものが外にいますと、今回は民間だが少し行政の視点も入りつつ、行政側も民間の視点が入りつつといった中でどういった制度を作るのかといったところの資源を分配する。何かをやろうとしている人向けの支援というより普通に住んでいる人向けの支援が多いと思う。その割合を今回の会議で考えると、どこに資源を投入すればいいのかという話かなと思っている。個人的には作り手向けの制度を充実させることが少ない資源でいつまでも住み続けたいまちに近づくのかなと思っている。全ての人を行政の予算で救おうとすると限界があるので、まずは作り手側を支援すれば作り手は勝手に受け手側の人の生活が豊かになるお店を作ったりとか、移住者を呼んでくる可能性もあると思うので、未来づくり会議で扱うのは作り手の人向けに対しての議論を深めれば良いのではないかと思うし、さらにここから分野とかを絞っていても良いのではないか。一番分かりやすいのは内側の作り手の支援を行って、外側の作り手に情報を届けてもらい内側の人に影響をしていくというのが順番としては良いのかなと思う。</p>
委員	<p>そもそも中にいる人が育たないと仕方がない。結局外からの人ばかりになってしまうとそのテイストが入ってしまい、その地に暮らしている人たちにとっては毒であるかもしれない。どちらかをやらないという選択肢はなくてバランスの問題だと思う。</p>
委員	<p>割合としては70対30がいいと思う。</p>
座長	<p>中にいる作り手向けの支援を2つ考えるなら、まず外にいる作り手向けの支援を一つ考えるといったイメージで進めていけると結果的にいい形になるのかなと思う。ここからさらに具体的な話をどんどん進めてくこととなるが、今回は情報発信の部分が多かったと思うが、それ以外で分野で課題感を感じている分野があれば、そのリストアップをしたいと考えている。</p>
委員	<p>空き家に興味がある。一度空き家研究会というものに参加してみたが、結局空き家が増える理由って何なのかと考えたときに、家を受け継いでいた人が後の人に譲らずに亡くなってしまって、権利が子どもに平等に分散されてしまう結果を何回か続けた結果、権利を持っている人がたくさんできてしまい一人ひとりに了承を取らないとその家を何とかすることができないことが問題だそうだ。</p>
委員	<p>空き家を所有されている方と空き家を活用したい方とのマッチングがうまくできていない部分があるので、そのマッチングができれば良いのではないかということ、課題というところで言うと人口減少がすごく気になっていて、昨年の出生人数がすごく少ないということを知った。生まれてきた子が小学校に入るまでに親の転</p>

	勤などで外に行ってしまうので、志度小学校でさえすごく入学者数が少ないということ聞いた。高校の統廃合もあるが、人口が勝手に増えてくるような仕組みを作れば良いのではないかと思う。
座長	ちなみに人口減少対策としては2種類あって、今いる人が子育てしやすい、子どもを産みやすいという路線と外から新しく来ていただくという移住の路線があるがどちらが興味ありますか。
委員	もちろん並行して大事だと思うが、やっぱり私は外部から来てもらう、家族ぐるみで移住してきてもらうところに重点を置いた方がいいと思う。新しい方が別の地域から来られることで旧町間での連携不足の部分の垣根をなくしてくれるのではないかと思う。
委員	私も人口減少が課題だと思う。帰省するたびに色々な施設が潰れてしまったり、高齢者が病院へ行く手段がなかったりといったことは根本には人口が減ってしまっているのも事業者としてもサービスとして提供しにくくなっている。中の人が生みやすくするというのも当然大事ではないかと思っているが、即効性があるのは外から来ていただける魅力づくりが早いのではないかと思うので関係するデータを知りたい。
座長	三豊市は観光やデジタル化等の取組で名前が売れている。最初観光に力を入れて民間が財源を作った後、今は高校教育のデジタル化に力を入れて推進している。最初に即効性があることをやった後に時間がかかる教育分野に着手している。そういう流れはありではないかと思う。
委員	移住に関するデータは提供することは可能なのか。
事務局	社会増減や自然増減といったデータはある。
座長	次回の会議までに情報を共有したい。
事務局	移住がどれくらいあるかといったことは市民課窓口での聞き取った情報があるので合わせて確認したい。
委員	田舎の人口は減るものだと思っている。例えばこういう会議で画期的な政策を打ったところで自然死や転勤をしないといけない人もいる。さらにさぬき市に大学がなくなるので、大学に進学する人たちはさぬき市から出ていく率の方が絶対的に高くなるので人口減少は止められないと思う。そうなった時にどういう増加のさせ方をするのかとか、減少を食い止めるための策を打つのかは考えておいた方がいいので

	<p>はないかと思う。特に徳島県神山町だと想像的過疎といって将来人口がどれぐらい減るといったデータから少しでも減少率を緩やかにしていこうという取組を進めている。行政と民間が連携して頑張っても、既に決まっている取組だけを行うのでは人口減少は止まらないと思う。</p>
<p>座長</p>	<p>人口が減少することを前提とした場合に何が問題で理想的な状態は何かが大事だ。宮崎県日南市は商店街の活性化等で有名だが、その行政の方や民間の方が口を揃えて言っていたのが、人口ピラミッドを理想的な形に整えることをやっていると言っていた。人口ピラミッドの理想的な状態というのは人口がどの世代も均等にいる形だそうだ。そういったところを目標にするのであれば、今のさぬき市の人口ピラミッドをみた時にどの世代が欠けているのかということを知ったうえで、その世代を移住で誘致するような方法を考えてターゲットを設定していくといったやり方もあると思う。先程の神山町の場合は作り手かつ外にいる人をうまく引っ張ってくるようなやり方も考えられる。次回ここを協議しても良い。その他には公共空間の利活用で、例えば道路や広場、川辺や浜辺、廃校跡地とかの活用ということは面白いところかなと思っている。特に規制が強い部分はマイナスだが、だからこそ規制がなくなればプラスになる。規制があるマイナスの領域で一定の需要があるところを変えるということは公共空間の利活用といった面でポテンシャルはあると思う。この会議の場は特殊だが、行政職員と事業者や市民の方が触れ合う機会がなかなかないと感じていてすごくもったいないと感じている。この連携をいかに作っていくのかということ、この会議をどう維持していくかどう広げていくかということにも近いかもしれない。ちょっとしたことでも良いと思う。例えば、空き家のことならこの人に相談すれば色々教えてくれるということが分かるだけでも一歩進むのではないかと思う。逆に行政側からすれば、このテーマならあの人に聞けばアドバイスをくれるといった関係性ができるだけ全然違うと思う。そういったことの土台みたいなものをこの会議で作るところまで持っていくことはできるのではないかと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>皆さんの話を聞いて思ったが、結局、三豊市の何が良かったかという写真からだったと思う。おしゃれな写真を撮って観光に来る、そうすれば観光客目当てにおしゃれな店ができるといった流れをさぬき市としてのジャンルとして決めるということも必要だと思う。世の中のたくさんのマニアのどの世代をターゲットにすれば、今いない世代を補充できるのかというようなことを考えてジャンルを決めていくことを考えても良いのではないかと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>実際フェイスブックとかでもそのようなコミュニティとかグループは存在する。空き家を活用したい人同士の情報交換の場であったり、色んな所から情報収集することは必要なのではないかと思う。</p>

座長	<p>一次産業の話というよりは、空き家や人口減少、情報発信、官民連携の4テーマぐらゐを今後の会議で深く掘り下げていけば、内側の作り手と外側の作り手の人達にさぬき市を舞台に活躍していただける制度や環境を整えるということはこの会議としてやっていけると良いのではないかと思います。空き家に関しては、空き家の現状や補助制度等があればリストアップしていただきたいのと人口減少の数値部分、移住定住に関する補助制度や取組を情報提供していただきたい。情報発信については市が持っている発信媒体をリストアップしていただきたい。公共空間に関しては人口減少等の課題を整理して解決策を練っていく時に廃校とかの利活用の話も出てくると思うので、空き家、人口減少、情報発信の3つのテーマを置きつつ、解決策の方法として官民連携の部分を扱えると良いのではないかと思いますのでそういった整理でいきたい。</p>
委員	<p>皆さんの合意があれば良いが、さぬき市のジャンルを決める際に目的としては人口減少を緩やかにすることを目的として、皆さんの中で案を出し合うということをしていきたい。</p>
座長	<p>人口減少の話の時に扱わなければならない話であると思うので、次回は一旦聞いて整理してというところで終わり、その次から一テーマごとの話し合いにしても良いかもしれない。次回はこの3つのテーマについて、市側の情報を聞いたうえで整理しつつ会議を進めていきたい。</p>
事務局	<p>次回の日程は1ヶ月後ということで改めて調整させていただいてお知らせさせていただく。今回の会議は原則公開ということとさせていただいたが、今後についても公開ということで行いたいと思う。</p>
委員	<p>今日の会議については公開されていたのか。</p>
事務局	<p>少しわかりにくいところには公開していたが、それも一つの課題であると認識している。</p>
<p>～閉会～</p>	